

# ゆききのみち

日本古神  
道研究会

皇紀二六六二年 八月十五日 十五日祭 直会より

『お盆に見る先祖供養と』

靈魂浄化の大切さ』

お盆だけでなく 吉田洋子様 本日は八月十五  
正しい先祖供養を 日で、今年はお母様が神上が

で、他にも新盆をお迎えされる方もあり、「神道式ではどういふ風  
にさせて頂くべきなのでしょうか」というお伺いのお電話などが  
ございました。

師 新盆としては、この前の五十日祭、あるいは百日祭でした  
時と同じようにお玉串で構わないけれども、お盆として特に変わ  
った事があるかと言うと、そうではなくて、大神様からのお伝え  
の通りに、既に『ゆききのみち』でお伝えしたようにすればいい  
のです。(「ゆききのみち」第三十九号を参照ください)

私は本当の意味であの世があるということをお盆にも理解し

ていただきたいと思う。ただ単に人が亡くなったら肉体としての  
自分の親しい人が居なくなつた。「どこか天国で見守ってくれて  
いる」とか、「どこかで魂は生きているのではないか」という人の  
心の慰めだけに先祖供養をもつてきてはいないかと思うのです。

だけど、実際に肉体としては斎場に行つてお骨になつたりお墓  
に納めたりして、肉体はこの世から消えてなくなるけれども、そ  
の人の中にある心とか魂というものは、本当に永遠に生き続けて  
いるのだということをお盆、改めてもう一度皆さんにお伝え  
したいと思う。一般の方がそのことを分らないというのは、自  
己流にあの世のことを解釈しているのではないかと思うのです。  
でも、これはお坊さんにこそ是非伝えて欲しい内容だと思ひます。  
私は本当の意味でこのことをお説きになられるのは、お坊さんの  
大変に大事なお役目であると思ひますし、是非そうあつて欲しい  
と思つております。

皆さん方はこの世において、日常を精一杯生きています。そして、  
死ぬところまでは皆、お祖父さんなりお祖母さんなり、身近な人  
を通して見ているけれど、それから先のことがどうなっているか  
ということはお盆、学校でも教えないし全然学ぶ機会がない。そして、  
死んでから、「こんな筈ではなかった」という混乱がおきています。

本当の意味での供養ということを改めて考えて頂きたい。死な  
ない人はいないし、この世を終わつてあの世に行かない人も当然  
いない以上は、他人事だと思わないで、もっと真剣に取り組まな  
くてはいけないと思う。むしろ、今日はお盆を機会にこの話を皆  
さんにお伝えしたいと思うのです。

## 皆、行くべき ところがある

まず、あの世があるということを。そして、肉体から離れた靈魂をお坊さんが本来行くべき所へお送りする。それが葬儀の大切な意味です。今はお坊さんご自身が、あの世があるということも、本当には信じていらっしやらないかもしれないし、あの世に行く為に幕がある。それが見えていないのではないかと思う。(あの世とこの世のことについては、「ゆききのみち」一〇八号、一〇九号「神葬祭かくあるべし」をあわせてお読み下さい)

どこへ送ればよいかということをお坊さんがお分かりになっただけで、いらっしやらなかった時には、靈魂としてはどこへ行ったらいいのか迷ってしまうことになるのです。あの世には天国と地獄の二つしかないのではなく、思った以上にものすごく沢山の階層があるのです。ちょうど、ミラーボールのように沢山の入り口があり、それぞれの階層に分かれているのです。

亡くなった方をその階層のどこへ送ったらいのかということが見えなかった時には、行くべきところへお送りすることもできません。そうすると、行くべきところへ行けない靈魂というのは宙に舞ってしまふ。そして、宙に舞ったまま行き場のない靈魂が、この世の中に影響している。その大きさは、皆さんの想像以上なのです。例えば病気で喘息、リウマチは百パーセント靈的な影響なのですが、それがこんなに沢山患者さんがいらっしやるといふことは実際に本当の慰霊ができていない証拠ではないかと思うのです。

## 真心を込めた 食事で力が付く

行くべきところに行けない人が沢山いらっしやるけれども、あの世に行つた人の力だけでは不可能であったとしても、この世に生きている子孫の方が心を込めて先祖供養をすることによって、ちょうど毎日毎日お母さんが朝夕お食事を作つて下さつて、それを頂くことで明日の活力を得るように、あの世の靈魂も子孫の方の真心による活力をもらつて、力を付けることができるのだということをお坊さんはご存知ないのではないのでしょうか。

そして、その真心を込めるということをお坊さんは忘れていないから、それが自分の親に対してでも老人虐待になつたり、子供の虐待になつたりしているのです。出ている現象のところだけを見ていられるけれども、やはり真心を込めることが大切なのです。そういう意味で、その方をただ徳ぶのではなくて、真心を込めてご供養するように、それぞれの家が切り替えていくだけでも、どれくらい今起きている問題が解決していくか判らないのです。

ちょうど今日はお盆なので、沢山の迷っている人、低いところへ行っている方達が、一斉にいわゆる体に知らせるという形になる。やはり先祖の方は言葉で知らせようがないから色々な形で知らせて来るのです。それで、私達はお伝えを受けたり、皆さんにお伝えができるから、「自分達もこういう風な苦しい状態にある」といふことを明け方に一斉に訴えて縋つてこられた。足がつつたり、いきなりお腹が痛くなつたりという凄惨な状態になつたのです。ちょうどお盆の時期なので、出ってしまったのです。

皆さんそれぞれのお家筋としては、普段に祖霊祀りをした上で

三ヶ月毎のお御霊送りをしているから良いけれども、私の場合には行き場のない沢山の方が縫ってくるのです。起きようと思つたつて、足が自分の足ではないと思うくらい沢山の方が一斉に出ている。皆さんはただ単に足が重いか、体が重いかと思うだろうけれども、あの世から訴えてくる数がかも全部見えたら卒倒してしまふほど沢山の数なのです。

それが証拠にお盆の前後に急に具合が悪くなった、倒れた、その期間に事故があつたということが、どれほど起きていますか。そういうことも、例をあげてみると皆さんにも思い当たる点の色々とあるのではないかと思う。

あの世の人というと、皆さんはお祖父さんとかお祖母さんとか自分の知っている範囲の人と思つているかもしれないけれども、そういう身近なわずか数人の人ではないのです。人類の先祖というのはまさかお祖父さんから始まつたわけではない。もつともつと沢山の先祖の人から、今の自分達がいる。色んな時代を通つてきたということは歴史の上でも知つていくわけでしょう。

だから、その時にただ単に、何十人とか何百人とか居るんだよという世界ではない。今の自分があるためには、もの凄い数で、何万人・何億人という数になるでしょう。

## 檀家さんを救う 尊い役目として

一軒の家筋という前提だけでも  
そうだけれども、お坊さんの場合  
は檀家さんの分も一緒になつてい  
るわけです。だから、お寺さんには失礼だけれども、跡を継ぐお  
子さんができなかつたりとか、お体で極端に具合の悪いところが  
出たりとか、意外と早死になさられる方がいらつしやるとか、功

徳を積んでおられるのに、なぜそういうことが起こるのか。もちろん非常にご高齢の方もいらつしやいますから、一概には言えないけれども、一般的に見た時に「なんでお寺さんが」と言われるような方が意外と短命であつたとか、いろんな問題を見ることがあるのです。そういうことから霊的な問題を無視することはできないのです。むしろお坊さんにとつても、こういう霊的な問題を知らないともうの凄惨な数の霊の縛りを背負つて人生を過ごさなければならぬということにもなるし、逆にその人に縛りかかない檀家の霊魂の人達はずっと救われない状態になつていく。

宇佐美さんのお母さんも、ご本人は永年に渡つて大変な思いをされたんだよね。ご主人の実家がお寺で、長男の方が住職に就いているから、お母さんご本人は、御庫裏さん（浄土真宗で僧侶の妻の意味）の立場ではないけれども、そのお寺の家筋と、さらにお寺の役目として、檀家さんの家筋の霊的な縛りも受けてしまつていたのですね。それで、以前から急に心臓の動悸がして倒れてしまつたり、血圧が高いとか、腰が痛いとか色々と体に出ているということだったのです。

宇佐美様 はい。母はご縁を頂きます直前には、目まいや耳鳴りがひどくて、病院ではメニエル病と診断されたそうですが、特に体調の悪い時は目まいが凄いのので、布団をしいたまま一日横になつていなければならぬ日もありました。それが、お清めをして頂き、祖霊祀りをして頂きまして、そして三ヶ月毎のお御霊送りをして頂き、今では見違えるような元氣さを見せてくれております。母のこと、そして、家筋のこととして、ここまでして頂きまして本当にありがとうございます。